



新刻 俳諧線衣 目錄

四季の詞

句木の事

雜の詞 菘雜の花

同坊補新撰

意の詞

同意句の扱

切字 下知ニツのぬ

去嫌袂の事

之の

ル波袂の事

俳諧の式 菘月花の定坐

ナ絨の袂

句數の事

用捨の袂

十六篇の句數

一

線衣之書述俳諧体格及四令定辭使鄙為都俗為雅也未附菘翁十六篇以充吟詠之備也嚮自旧刻肇行雅客騷人無不霑得珍藏以故梓字漫滅戊辰歲更再刻矣自尔至今改鑄凡八兵今茲又復芟煩補漏新上梓以便干風流云

寛政十年戊午秋

文刻堂主人題



春 正月

立春 孟春 聖節 睦月 上陽 初空月
青陽 初陽 大簇 夏正 端月 七卯月

元日 雑旦 年始 改年 歳旦 新春 年頭 年礼 三のくしめ

日のくしめ 釣糶 とも空 わら玉のくしめ 四方の妻

御代の妻 五の妻 六代の妻 七の妻 宿の妻

身まゝの 四方糶 福壽草 元日系 早唄小

氷の糶 元日節 御茶どけ くらり子 屠蘇白散

復赤糶 煮方 煮方棚 歳徳神 削りけ

園くしめ かぐん喉 樗葉 園の赤 くらり白

いぬつむ いぬあくる かさうり 門松 海老くしめ

借竹日くしめ 日茶日繩 次連くしめ 松飾

大あく とも喉 雑糶 具足鏡 やし男

たぐまや 後くしめ 美氷 井田 蓬菜くしめ 食つこ

ゆき記豆 ち巻 俵子 田代 押鮎 救の子

穂長 卒玉 あくく 練弁 社まき 孫子のこ

あく子 ともつて とも板 於鬼のこ こまらけ

福川 煮方 破戸矢 くらりめ 煮ひくしめ

湯殿始 孫る始 馬船系初 忌とけめ 吉書くしめ

筆試書初	舟玉糸	初夏初商	く月曆	店おろし
裏白連枝	去子今子	くろ鶴	物帯夕せら	松の内
いせ賣	松籠子	万歳子殿	万歳系	孫初詣初
彈きめ	初芝居	箭小袖	せら抱孫	孫川多返
大黒翁	人日女	子の日遊	子の日の松	子の日夜
いそ菜摘	七種	いと菜摘	初宴系	孫おろし
箕尾富 <small>七日</small>	光陸菊 <small>十日</small>	緑石 <small>イロモノ</small>	卯杖介 <small>トウカ</small>	いそひき
十日美	後ひくき	男踏歌 <small>トウカ</small>	十四日年越	おこり
帳とら	徳曳 <small>トウカ</small>	左夏長	いととんと	御 <small>ミカニキ</small> おろし <small>十音</small>

小豆粥 <small>十音</small>	粥本粥杖	粥占	山知小	厄神系 <small>十九</small>
送り	初天神	御忌 <small>十音</small>	东风	水とひく
菽入	急水 <small>トウカ</small>	孫雪	名解雪回	香か <small>トウカ</small>
粥急 <small>トウカ</small>	木の芽	下萌 <small>トウカ</small>	雪菜	水入菜
真釣	石州	蒸の <small>トウカ</small>	芹根白子	三葉 <small>トウカ</small> せら
妻多 <small>トウカ</small>	本坊の炉縁	万妻系	真雪持	雪衣
霞横 <small>トウカ</small>	くろくま	八色 <small>トウカ</small>	くまの網	まみの酒
くろくま	妻の袖	履衣	妻衣	くまの酒
松の花	あま <small>トウカ</small>	初縁	くまの系	あま <small>トウカ</small>

柳

飛ひ先

白柳

好文木

薄青柳

この花

掌寄柳

白ひ草

妻つひ州

澄むめ

柳

玉柳川柳

白ひ柳

門柳岩柳

風見草

青柳

老う柳

柳まゆり

えこ柳

こ娘柳

② 此以下三葉系口名

白ひ草

縫尾

弱名

百子名

掌

白ひ草

令衣名

秋うら名

経より名

掌の要

うらひ名

美名

冬うら名

海苔

まのり

様のり

かこ酒苔

ひんたき

うら皮

酒毛

猫作

防風

鳥苔

ワラめ

于大根

ワラび

芥 齋

下草

大筆

糸越

うけら

青めし

初餅

蛸堤

たぬり

きさう

猫の毛

飯こ

果名

佐保娘

膏雨

うらめ

長果

あてり

強藤

喜あしぬ

喜あしぬ

喜あしぬ

柳枝うら

青柳うら

永交日

逢交日

几巾

喜あ

柳

産の類

椿白草

菘つてき

山と焼く

芝と巻く

焼聖

山椒皮

聖老とこ

頂うら

後名

春 二月

仲春 如月 花朝 美景 夜更忌
夾鐘 中陽 令月 梅見月 小菖生月

春那候祀 釋奠初午 春日祭 市 比良八講 二日灸

新能七ヨリ 又十四日 社日 雪の別日果 然月

種ひく 種とろ 種とろ 種とろ 苗代 仏の口多 源源桂桂

小形御忌廿五日 淫祭會 孫とろ 依とろ 初雷 初電 名の原 さらと佛

酒酒 伎岸 重とろ 初雷 初電 名の原 さらと佛

雛子 少とろ 名の原 さらと佛

うとよと 名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

名の原 さらと佛

春 三月

弥生 季春 蚕月 姑洗 霽月 春惜月
櫻月 桐月 竹秋 桃浪 花飛 花見月

己の日の後 次慶の後八日 上巳 枕の草供 曲水の宴

枕元の帚 りの酒 遠候 糸のりち 雛糸

雛さきり 心ふ棚 帝雛 心ふ並ひ 母子偲

鶯合三日 青と踏む 石清水系中 花法の系 稻高のおか中

石山系三日 粟津系三日 吉野云式吉 順の界入 壬辰云云十日

おん念仏 暖味念佛十日 御身拭十九日 隅田念佛十日 浅草系十日

多き食 汐下 春のふ花 春の粥 音轉飯

御新供廿日 薄始生 惣とふくく 時名の菓 若の菓

呼子名 せよ入るる 春の海 麦うらう 田氣代結廿日

法名の菓 桜貝 のりう薬 さくら魚 桜鯛

桜うらひ 粟子蛸 ちぢちぢ 小鮎らむ 柳葉魚

桃 ぬり 白龜 桃桃 桃の太 翠桃

三子代系 みさこ州 桃林 桃の太 桃の太 毛りの系

桜 山さくら 沙英様 隔さくら 暖草

くさハ様 塩梅様 俵勢さくら 江戸さくら 大さくら

八重様 為茶さくら 春のさくら 春のさくら 春のさくら

人丸さく

蹴さく

くし様

白ひさく

虎の尾

道さく

谷さく

普賢像

花さく

蹴さく

庭さく

糸様

家さく

羽竹様

相谷さく

かき草

様田

さく稻

様人

さく戸

重井の橋

一重橋

墨海様

半妃様

白きり様

太山扇君

あさ草

夏見州

不弓様

きり様

花

花の雨さ

花の雪

花の雪

花の雪さ

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花園

たか車

花の母

花の宴

花子様

花うら不

花の雪

花の雪

花桶

花符

花白

花の花

花後

花結ひ

花の幕

花の雪

花の夜

花の雪

花親

花の幕

花軍

花見車

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花見酒

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の友

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

花の雪

辰のつー 鬼く悔く小式アアー ねんつー 田山つー

友 友あゝ 友う枝 友うう 友うう友

や棚 友つふ 白うー 友毒 友世受

赤南花 小糸花 棗のむ あせやのま 阮丁花

金盛花 彩葉つむ 了んこのま 楊梅の花 山吹

本蓮花 本瓜のま かつやけ 檜の花 蕪榜の花

香子の花 李の花 梨の花 山梨の花 新のつまふ

おみの浦ふ 海棠 辛夷^{コフシ} 日向こがー 小糸まう

柿のまう つむふ ちくこ橘 くらこ糸 蓮鉢州

金風花 けろん糸 丁子糸 毒菊 毒糸糸花

あつま糸 かつら糸 菊柱うま 菊苗 さうくま糸

九輪糸 七色花 仙糸くま めうまう 三月糸糸

三月文相 糸橘 糸菰 除生山 山吹糸

つー糸 糸打柳 通糸の花 柳の紫^ナ 竹の秋

種鳴 八十八夜 けうま糸 竹糸 毒の名糸

まき糸 毒と防 毒の限 毒の毒 毒と防

毒の糸 夏と防 友と防 夏と防 毒の毒

毒の糸 毒の糸 三月糸 毒の糸

夏 四月

初夏 首夏 卯月 乾月 卯の辰月
中呂 孟夏 早夏 鎮月 辰名 卯月

更衣 白くまき 給綿費 青簾 筑广系一日

緋高の系一日 水登の縁三日 新因系四日 灌佛 仏生会

仏のく湯 浴佛 新花会 花御堂 又と巻く

練供養十日 玄因系五日 松尾系中申 加茂の系中酉 日光系十日

葵車 花供廿日 地更系九日 八瀬系 多かた系十日

日吉系中申 林と原 梅天 芋極く

花の花 牡丹 わく系 北日州 名とり系

言田系系 くらい系 花五 芍薬 多い草

燕子花 くらつとこ くらよと あり系 二葉系

葵うら くらあひ 左葉 小あひ 玉巻芭蕉

玉巻く葛 一八 ちやか 二やうひ 芥子の花 凡車

ころせん系 思あし 踊花 桑川系 卯の花

卯系長 卯系くし 弓楓 若葉 卯の花

つら系ふ系 くら系 葉さく 突さく 新樹

夏本立 木下やく ちける系 系あふ 桐の石

花柚 夏人州 柑敷の系 白丁花

山首の花

まろろの花

岩梨の花

一担飯

飯ま

郭公

茂系桂

さくらく

くく

雀籠 附籠

かんこる

初籠

籠約

籠の不

附籠

筆

たうんか

鷹時籠

和法の天

持あり虫

葱檜

麻袋角

まくてひ

あまの葉の茂系の蓮の傍系

蓮玉

紫系系

紫系系

麦秋

麦の秋風

青麦

初かまひ

まくらな

扇

(三) 此以下三夏のころる

首のころる

蓮のころる

月のころる

夏菊

青山楸

根いり

海松

扇

うりぎ

あうさ

蓼

紫福

くくまま

千鶴

波ひ鶴

船鶴

青鶴

通鶴

川楸

蝙蝠

坂宮ひも

鴉舟

鴉舟

鶴川

鶴繩

虫垣

蚤垣

蚊垣

故や火

まいらん垣

蚯虫出る

蝸牛蠅

海蛇干尺

鏡夜

ゆやまん垣

秋古の系

麦粉

秋麦

冷汁

考之後一

考酒

系物

心之附織

汗

汗拭ひ

扇扇

くらひ

風炉

一夏友り

夏重文花

夏入友り

一夏終

女居

夏 五月

蕤賓 茂林 皋月 四子月 月見ぬ月
仲夏 禰月 鶉月 早苗月

加茂足掛一日 松本系一日 軟草蒲音 加茂の鼓馬音 生玉音

菖蒲系音 萩園射日 御霊會九日 端午 日長音

菖蒲月 蓮音 射のあやめ 柏音 糎 菖蒲

並音 ぬ湯音 さぬ甲音 さふのり音 さぬ刀音

けろろ甲音 さぬ帷子音 百子音 茶日音 茶玉音

茶艸音 つむ 菖蒲 菖蒲の机 菖蒲の花 さふ酒

さふ石音 さつと玉音 松音 六日菖蒲 永交音

菖ろ音 水馬 騎射

字法系音 字法系音 坂中系音 宛係音 大系音

仍音 山田音 山田音 山田音 山田音 山田音

さつ石の鏡音 みる石の目音 又月雨音 さつ石音 半松音 生音

入梅 つりり 早松音 生音

百合 毎音 さつ石音 生音

車ゆり さつ石音 生音

菖蒲子 来音 生音

石菖 茄子 生音 花音 洋音

藤より舟	藤の花	藤と刈	口赤しの花	菱の花
お布と刈	紫陽花	口赤しの花	ちくの花	さくらんぼの花
下つもの花	ぐくの花	おの花	末つむ花	くらんぼ
つまねの草	おあ系	悪あしの花	金銀花	かやの系
くさく草	さ月下	おらつド	金銀の系	花ぶくろ
ひかり柳の系	林の花	せんえの花	天南星	南まの花
青梅	とら梅	あふち	香子	枇杷
萱草	接子	うり接子	石ちく	系の花
蔓	ふ日お	まとうひお	あ夏	つら系花子
小蘇	白瓜	あさう	干瓜	照射
おめけ系	鶉の系	あまの系	鴨の子	歎物
麻の系	虫	あまの物	蚊やり	蚊うら
蜂の初夢	又月園	あつ竹	あし竹	席と雨 共日
田植	早し女	田うあ	青田	玉苗
早苗とる	あ苗	田系とる	菜の系	梅漬
梅と下	梅むき	小梅の系	かたき	菘とあ
空豆ひく	系とく	梅とく	さひとく	豆梅
ふの粉	麦粉	粉	水粉	

夏 六月

林鐘 且月 瓜期 水在月 孝友月
季夏 精陽 遯月 風在月 昭在月

氷室

少室の香

氷候後

氷あゆむ

少室の橋

富士詣

六月令四日香

嚴修系十日

竹生修系十日

熱田系十日

夜修系廿日

江戸山王系十日

修修系十日

天満街廿日

嘉定十日

祇園會七日

長刀鋒

函谷

月不之

鷄不之

菊あふ

放下不之

船不之

岩戸山

古出山

孟宗山

郭巨山

蟠蟠山

琴波山

白雲山

方子山

木織山

若刈山

花盗人山

山伏山

天神山可

笠鋒

檜葉山十日

鯉山

鳥俣山

星山

坂乃老山

鈴麻山

香山

観音山可

舟不之

在既の涼九日

一振酒

こさけ

破二サケ

加茂の能廿日

川社

夏後スカヌキ

名越後

多神系

形代

芽の痛

夏スカヌキ

鞠九日

空つひ

夕立

よくら

暑

去用

虫不

三伏

簞冬

竹奴

竹婦人

抱翁

納涼

涼之

川系涼

月涼一

涼一

日傘

風草

せの

涼水

水版

瓜水 丁飯備 とうりト 菊池作

ひの造 川骨 百日紅 とうり 楊梅

蓮 蓮 赤葉 白蓮 蓮の葉

つばき系 竹の皮とり 竹のむく 蒲の穂

南と州 竹葉 かんひの茶 紙を記系

凌青 虎尾の花 風葉 約子系 さいじん系

夏枯系 赤系 青見灯 夏草の系 麻

さくし麻 麻前 夏草 夏草の系 かしむ

綿の花 めうりの子 苜の花 瓜あめを 蒜の根

腐爛化堂 香薷散 瓜 ちりり かし瓜

とよ菜瓜 始りり 水りり 胡瓜 糸瓜の花

夕曇の花 益教 望まの茶 于瓶むく 射丁

移り虫雀 益刈 火とり虫 ころり虫 毛虫

蝉 蟬のりら 結約 せこし捨 籐

仲弦 ぐけん 川猪 雀丸 夏草

涼系 伝言編 樹名 夏草 夏涼文

夏と送 夏果る 夏の子 夏ぬ秋 秋と侍

秋ちりり 梅の満 炎天

秋 七月

孟秋 初秋 夷則 蘭月 女良月
明景 首秋 桐秋 文月 文心月

立秋 夕の秋 夕の秋 夕の秋 秋の初風

一葉 桐の葉落 初涼 初涼 秋の初風

柳茂る 一葉舟 相極 相極 柳の葉落

日夕掃 拾持 七夕 七夕 柳の葉落

夕の娘 夕の娘 夕の娘 夕の娘 夕の娘

星の白 夕の娘 七夕 七夕 夕の娘

二ツ星 星の賢 牽牛 織女 系夕の娘

星のやう 天の川 銀河 銀漢 星の賢

妻をひき 妻をひき 秋のいし 鶴 日暮 夕の賢

硯洗 札洗 乞巧奠 七箇の池 夕の賢

立琴 七夕鞠 七日節句 羊の葉の影 秋の賢

文珠會 六道茶 送の孝入 中元 清涼寺 十日

盃蘭盆 盆供 施儀鬼 縁糸 牛身縁

聖靈會 縁柳 夕の経 楳の葉賞 瓜の馬牛

迎火 送り火 迎火 暮糸 盆のつと入

こけ萩 夕の州 夕の豆 枝さけ 麻の葉

蓮の版

蓮の葉賣

さし籠

盆布

茶巾

燈籠

舟きりり

楊竹籠

花きりり

切子きりり

親きりり

箱きりり

高燈籠

踊

小町きりり

修治きりり

歌目きりり

金仏きりり

木呂きりり

松さきりり

三井昔女^昔

太字の火^昔

鳥居火

舟吹の火

妙法火

夏書納

夏め事

経本流

こさ山^昔

燈籠系

地着系

紗綿

花火

箱妻

箱のとの

初嵐

徳屋俵

扇並く

うちと捨

妻とた

次麦

あつ麦

木櫃

茶の花

女着系

男一

物下

きりり

侍きりり

袴

萩

糸たき

小たき

萩の綿

麻着系

楓

柞

仙岩花

親着系

袴系

茶師茶

おと切茶

蓋母州

たせ紙

おまひ系

くしんの花

まき玉の花

紫着

蘭

わらき

着んち

小車の花

あの子茶

ちんちきり

やいとち

柞の葉

木仏の葉

夕方の葉

徒後花

柞の花

くさねの葉

蓮の葉売

淡柿

まきり

新撰

淡きりり

淡つく

刀豆

西瓜

棗

瓢 百あり 多あり 毒徳

鳩 初音 附出の音 鷹山口の音 秋の音

初音 二百十日 本綿とり 稲の花 富貴の音

子稲 雲の音 稲葉の音 秋の故 秋の虫

虫合 松むし 人かみ虫 秋虫 くらぐま

たごどり くらぐま いかし くらぐま いかこ

いか虫 くらぐまの虫 虫 くらぐま くらぐま

蜻蛉 鬼えんり 赤とんぼ 秋津虫 蜘蛛

はぐくまじ 秋の蝶 秋の蜘蛛 鎌倉の音 百六日 十日

藤子作む虫の音 音 鳴とつけぬ秋の音

(三) 此歌下三秋おりの 糸社樂 角力 糸

神の音 志しあ くらぐま 音 音の音

音の音 音の音 音の音 音の音 音の音

夕ぐり 胸の音 萩 萩殿 萩の戸

萩 萩の音 萩の音 萩の音 萩の音

月の音 月の音 思の音 弓張の音 三日の音

立田の音 立田の音 立田の音 立田の音 立田の音

川の音 川の音 川の音 川の音 川の音

秋風	泥水	稻刈	秋草	雑草花	椎茸	秋薑	さいさい	梅の葉	柳のけ	草鴉	青梨子	紅紺	不と暗	鳴らう	麻笛	麻猪
男中	引板	小田吉	ことし草	あふ草	美草	草	ぬえ	梅のこ	て物け	松のけ	ありの矢	虫	川系暗	らうらう	小鶴	紅草
おやう	稲下	業山子	懐こめ	女草	葛の葉	石燈	糸瓜	芋の葉	まのけ	おのけ	おま	こま暗	結草	らう網	鶉	女
おやう	稲むら	あまのこ	稲糸	聖の草	唐朱紅	あまたこ	さうか	山のいも	松のうら	おのけ	あま	この虫暗	裂草	暗	片らう	男
秋草	稲垣	あまのこ	稲こく	らうや	葉緑	推	南瓜	午房	松の葉	椎のけ	あま	草	小鶴川	暗の暗	らう鶉	麻の妻

秋

八月

仲秋 葉月 壯月 胙月 杪月
南呂 竹春 桂月 月見月 尾来月

八朔

この日の目

白鷺の閑帳

小野糸

坂天神祭

菅原系十音

菅太良系十音

御灵系

十日

紋止金十音

司石

十日

月

休言

十六招

とら信月

石上り月

亥中月

十五夜

二五招

名月

くさの月

杪月

月々言

目のあけ

月のら

月の糸

月の香

くさの月

月の鏡

月の糸

玉糸

極のつら

月の都

夕月お

月の友

月と友

盃の光

娘嫁

娘嫁

芋名月

杯の月

名高の月

月小娘捨さしりかといはれし
をまて文料小月付しうりしを

杯月の約

約亭

約むえ

後の彼岸

蛇宮よ入

初汐

葉芙蓉

本厚の花

うろしの花

花野

為

衣のまこ

糸着

花を文

尾花

一力せ着

たの海まき

宇治系園

花吹雪

盃の花

紫苑

兜の志こ

竹の亭

月系

赤糸

茶の糸付

花菊

飛雲つ

妙山の綿

帯分

風仙花

くさね糸

極りしら

合別茶

くさつる糸

鴨上戸

くさね糸

あけひ	葵の花	梅	かきこの花	けしこの花
うそ瓜	ゆき瓜	榴特花	あけつあき	白粉の花
鳥 <small>カサ</small> 匠	秋鏡	あや兄弟	梅の花	ころこの花
たしこの花	若葉の花	若の花	若の穂	いすこの花
水いこの花	あやく菊	乙多ゆり	小多ゆり	箱負青
尾	初尾	尾の子	けしこの花	尾の輝
尾のき	尾の使	白尾	後きり	まき尾
又も	つくも	かき喰	喉本	山雀
かき	小く	早く	早く	不あり
鴨鴨	翠雀	弱き	連雀	豆ま
目白	まこと	鶴 <small>カ</small>	菊 <small>カ</small>	鶴 <small>カ</small>
不し	あど	鴨 <small>カ</small>	鴨 <small>カ</small>	鶴 <small>カ</small>
鶴の目	鶴 <small>カ</small>	うき	あき	隼 <small>カ</small>
本急	坂	あき	あき	四子 <small>カ</small>
あや	小葉	あき	あき	編州
種 <small>カ</small> の田	田刈	田 <small>カ</small>	田 <small>カ</small>	田 <small>カ</small>
八重 <small>カ</small> 穂	尾 <small>カ</small> 穂	種 <small>カ</small> の魚	加 <small>カ</small> り	芥 <small>カ</small> 子
大 <small>カ</small> 招 <small>カ</small> き	苗 <small>カ</small> 塘	初 <small>カ</small> 穂	牡丹 <small>カ</small> の分 <small>カ</small> 根	才 <small>カ</small> 葉 <small>カ</small> 明

秋

九月

季秋 暮秋 長月 初月 小西月
晚秋 菊秋 菊月 麻月 本末の秋

御燈三日 奉

榎宮九日

くま九日

磁石日

内書日

重陽九日

重陽の宴

重九

菊日

菊の長勺

菊日

菊日

あぐめ酒

菜萁の袋

九日の礼

例幣十日

例幣十日

例幣十日

方十日

白川十日

日蓮十日

日蓮十日

日蓮十日

せ十日

植川十日

あや十日

あや十日

あや十日

く十日

旗十日

本十日

本十日

送十日

麻谷十日

山十日

八十日

八十日

八十日

八十日

虫十日

中十日

中十日

中十日

中十日

中十日

粟十日

粟十日

粟十日

粟十日

粟十日

落十日

落十日

落十日

落十日

落十日

加十日

加十日

加十日

加十日

加十日

栗十日

栗十日

栗十日

栗十日

栗十日

百十日

百十日

百十日

百十日

百十日

久十日

久十日

久十日

久十日

久十日

久十日

久十日

久十日

久十日

久十日

茗搦子	椈のこ	秋ころこ	柿	甘不	柘桑の糸	細代布	お葉餅	うり	こしひ栗	蜜柑	菜豆	葡萄	金くさ	やなぎ	秋ころこ	秋の名所	あをむ
椈の糸	椈の糸	秋松子	柿柿	圓栗	藤らる	あぶら	たの魚	栗	矢ころ	金うん	豆りく	ふらう酒	あまき	うなぎ	秋の糸	秋の糸	雀蛤と蛸
柄のこ	藤推	松糸	本練	久草切	若の穂飾	藤耐糸	まろめ	栗ころ	煉ころ	杜	小豆りく	むつら田	冷り紙	長支糸	秋と括	若の秋	九月糸
とら麻	ざくろ	柿糸	穂柿	足山の綿	破芭蕉	糸む麻	根穀	紫ころ	い栗	杜り	粉豆	塙雜糸	あま	乃秋	秋糸	糸と漆	柿送り
せん入の糸	秋桶	ひし柿	御下柿	末柿	若り水	尻城の鴨	竹の糸	さころ	ておころ	担味	初糸	神の糸	秋糸	樽糸	秋の糸	糸と漆	

冬 十月

去冬 初冬 陽月 仲冬月 初春月
小春 孟冬 良月 明和月 正月

御玄緒

亥の子の候

仲の節

仲の節

冬さき

射切始 昔

大社神 中々

出や神系

達磨忌 昔

东福寺因山忌 十六日

御新嘗 十日

十夜

幽夜

神むらひ

下元

夷講 十日

徳因文

巨魁切

炉火

茶口切

火桶

桐火桶

付雨

川急の時

松風の時

夕々れ

村々

小節

横々れ

彼々れ

初氷

新のそら

新粒

新葉

木の葉の雨 この葉衣

風

葉の葉

葉の葉

菊 初

初氷

名の本

うき柳

葉の葉

初雪

初氷

吟り花

花の葉

葉の葉

さくし

冬梅

冬菊

水仙

冬梅

八子の花

つこの花

枝の葉

冬梅

冬梅

氷巻の役

雪の子

さくし

麦

源

冬梅

冬梅

香車

香の節

香の葉

冬梅

冬梅

香々れ

香佛

冬見

冬梅

冬梅

冬梅

冬梅

三

世取下をわける

大指川

草ひき

くま草

于菜約

細豆汁

葱子

種き

くま草

切丁

風呂大根

室の梅

宝咳

くま草

くま草

五粒

枯野

木りり

くま草

宝咳撲

藤系

木の葉

くら系

くま草

獲さる

月夜

きせ

おとせ

網代

あろ本

氷魚

ふら草

ふら草

村とり

鳩とり

漬物

浦ふり

川ちと

磯ふり

久波傷

ちとり足

水鳥

うたぬの

磯ふり

鴨

さき鴨

生鴨

ありも

鴨

とりの倉

ありのむら

体氣

令氣

鴨

くま草

海強

くま草

くま草

炭竈

炭とり

まろ炭

白炭

指炭

炭焼

小型炭

素炭

子坊

子あかり

湯婆

火棒

綿子

衾

炭をく

炭

巨燧

紙衣

既巾

蒲団

既巾

扇既巾

服

既巾

扇

炭

香吹

くま草

香吹

香吹

炭

冬 十一月

仲冬 復月 鴨月 神樂月 冬月
黄鐘 暢月 霜月 天正月 冬見月

曆養 一日

冬至

一陽生

芝居

宗廟祭

上卯

山科祭 上日

平聖祭 上申

社本祭 日

梅宮祭 上卯

松尾祭 日

苗戸祭 申

右内祭 中申

日衣祭 日

大系野祭 申

吹草祭 八日

猪の役

里神祭

とく祭

おきの神

日衣の祭

日産のうら

うら祭

空也忌 上日

おとのお

雨火燒

子やうり

柳祭

大系祭

小系祭

春日祭 上日

樹名

亥日後の徳

新嘗祭 申

豊明祭 中辰

大師講 昔

山神祭

屋敷

墨鏡

被初め

酉の市

猿蓑備

初夜祭

名丸け

ふくれ祭

かひく祭

たけ祭

旗名祭

名女祭

名獅子

名布袋

名志祭

名こり

六の花

あゆり

氷打

氷氷打

凍水

うら祭

うら祭

厚少

氷の鏡

名少

名玉梅

名山祭

名やうり

青丁菜

かり場の名

猪場の籠子

追音猪

名

名苦祭

刀草

名猪

餅つる

名

こたきお

雪車

つみね

冬 十一月

季冬 師走 臘月 十二月 亥月 大呂 極月 除月 正月 梅初月

乙子の節 川初り候 お正月 赤 月次 赤 十日 正月事始

御仏名 十九日 久希綿 御髪上 下年 内宿不御神奈 又奈て神奈

年内ち夾 追跡 おはるゝ 節分 豆まき

枕さき 鶏取さき 厄さき 厄取さき 右田大後良子

大東さき 煉掃 煉拂ひ 几納 冬の入

おこり 冬念仏 冬まつふ 冬さき 歳除の年

歳暮 歳尾 流さき 年まき 晩歳 年の初

年々る 曆の末 節季 年終 団圓さき

年の矢 くの坂 年の浪 年木心 くの隙

年のくれ 年の市 浪まの市 年のまれ 候指

候花 うたき 練歩さき 栢うち栗賣 初板賣

破上らうり 星伝うり 脛さき 撰茶さき 茶作賣

肺松賣 子吹撲 早栢 真といさく 春と侍

春さき 真と侍 冬休の子 孟宗竹 冬まつる

鶺鴒の巢 衣配り 心回らさき 門賣さき 冬候御奈

大晦日 小まつり 除夜 和布の神事

雜

季ふたりうさ原詞 附雜の花の詞

葉書の仲 梅の宮 ちり山 くらり 和泉の園

放生の さらし川 柳の浦 柳の水 橋の都

菖蒲の都 板の森 富士の雪 葎の川 藤の角

藤の波虫 この虫 鳴 くらり 藤の葉

鷗の葉 ねる 玉むし けり せむ毛の約

忌牡丹 千魚の乳 櫻拍 株 子種

葉のうけ 果 まつむ花 空際の子 葎の葉

藤殿 葉の花鳥 葉版 葉け けり葉

梅丁 芙蓉梅 下りふ けり葉 船の葉

徑のうら 聖あそび 政の雪 肩の表 梅壺

柳橋 筆の雪 細い葉風 細代車 芙蓉

詞の花 花娘の舞 花の帽子 花田 花うら

花のうら 浪の花 花の都 花初 花子のねん

花の草 花のうら 花の都 花うら 花丁子

花山 花の梅 花のうら 花のうら 花のうら

△はて二季と多しハ難 花の葉 異や多し 花の葉と葉と結ふ又 花の葉 異や多し 花の葉と葉と結ふ又

戀

恋の詞 恋句あつふひのみす

急收思 恋奴情 蘇炎途 呼誓古 恨杯恥 ちあろ
新和と 以後の 現中々 二道 伴は 尻目 北島 多爾 別殿
秘函 つく 此の 個女 恋意のしを 文句 小う 夕夕 姉妹の 親も 恋の
眉目の 吾愛 婚社の 鳴 教習と 繼る 此膝 道具の 顔 ちた ちあろ のこ
香酒本の子 子流半 夫婦妹背のり 口 洗き 恋心中つ
め物と ころ 妹 娘屋の 相 命道半 揚衣の 西化 傾城 町の 名
たの ちあろ 恋屋の 恋の 相 ちあろ ちあろ 一句の 言は ちあろ ちあろ

増

初心の 人恋の 扱ひ 小 愛情 ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ
あり 恋屋 ちあろ ちあろ ちあろ 恋の ちあろ 連句 小 ちあろ ちあろ 恋の ちあろ
ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ
ちあろ ちあろ ちあろ

恋屋の ちあろ 相師の ちあろ ちあろ
ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ

是の 句 ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ
ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ

切字

恋句切字 蘇三ツの

ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ ちあろ

くらんむ さえふり けうやハ へんををりいさ
 いづき いづといふ 何れををりいさ へんををりいさ
 いづき いづといふ 何れををりいさ へんををりいさ
 大雲の歌をぬの字 おりぬぬの字をりいさのぬハ切字ふあつれ又
 考へー
 〇 現を へー 名ー 遠ー 後ー 毛ー 運ー
 〇 来来 へー あー 見ー 毛ー
 け二ツも切字をり
 〇 こと ありー 毛いー ありー ちうえー
 けことのー 毛切字ふあつれとちうえー

○ 俳諧之式 百韻 七十二候 源氏 四十四 歌仙
月花之定坐

- 面八句 七句日月之定坐 裏十四句 十月ヨリ月カ秋
- 二面十四句 十月日月 二裏十四句 初ウニ同
- 三面十四句 二五三同 三重十四句 二五三同
- 名残面十四句 三五三同 裏八句 七句月花之定坐

〇 七十二候之式
 七十二候と百韻の云の折面裏片一折抜さるる候とのあり候と
 七十二句より月花の定坐をいふ候とす

源氏之式

面六句 七句目月之定坐 裏七句 七句目月秋 二面七句 七句目花定坐 土句日月

二裏 初ウラリ 余波面二句 二面四 裏六句 七句目花之定坐

〇四十四之式 祝摩ふも世をあらたせし

四十四之式 祝摩ふも世をあらたせし 〇四十四之式 祝摩ふも世をあらたせし

歌仙之式

面六句 七句目月之定坐 裏七句 七句目月秋 土句目花之定坐

余波面七句 土句日月 裏六句 七句目花

句數之事

春秋 三句よりみ白とつく 夏冬 二句よりみ白とつく 神祇 釈教 旅 述懐 水邊 山嶽 夜合

人倫 人名 名所 國名 名所 國名 降物 生類 抄物 時分 衣類 天象 飲食 藝能 山嶽 水邊 山嶽 夜合

火辨 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊

句數之事 句數之事 句數之事 句數之事 句數之事 句數之事 句數之事 句數之事 句數之事 句數之事

句數之事

人倫 人名 名所 國名 名所 國名 降物 生類 抄物 時分 衣類 天象 飲食 藝能 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊 山嶽 水邊

火解 風解 約と冬を替る時分 日月星とくろくは光り物
本と竹と草とくろくは抄物 法を然とくろくは生類
左のふ二白をくろくはくろくは日一

同字 生類 括批 時分 夜分 夜教 達信 居訪 旅辨 神低
釈教 急 急常 山類 水急

月松竹 田 溪 枕 舟 檣 日 季
左のふ二白をくろくはくろくは日一 日一白は付向も嫌ととも着刻とくろくは
本と竹と草とくろくは抄物 法を然とくろくは生類 左のふ二白をくろくはくろくは日一
本と竹と草とくろくは抄物 法を然とくろくは生類 左のふ二白をくろくはくろくは日一
本と竹と草とくろくは抄物 法を然とくろくは生類 左のふ二白をくろくはくろくは日一

同増補 彩撰

父母 男女 人倫の別 維身 獨媒 人倫と定ては各をくろくは
僧 寺 人倫の別 親 女 天童 天女 御門
帝 仙 洞 影 院 冠 佛 人倫と定ては各をくろくは
若菜 郭公 松虫 水仙 鳥 鷲 三日月 屋上 人倫と定ては各をくろくは
雪 魚 虫 車 飯 飯 茶 酒 人倫と定ては各をくろくは
おのふれは 一白をくろくはくろくは日一 松の子の目 月 又 斜
おのふれは 一白をくろくはくろくは日一 松の子の目 月 又 斜
おのふれは 一白をくろくはくろくは日一 松の子の目 月 又 斜
おのふれは 一白をくろくはくろくは日一 松の子の目 月 又 斜

今式も古式の語ひ物ありと今式も古式あり 開伽 蓮火 薄露

賦の字 紀の字 倭 昨 以八部も古式も夜分と何れも夜分と

冠小鳥帽子 飾子本飾 夕立子重 ぬす子花 以八部も古式もつけるといふとありと今式も

以八部も古式もつけるといふとありと今式も 山 峯 風 嵐

以八部も古式もつけるといふとありと今式も 山 峯 風 嵐

以八部も古式もつけるといふとありと今式も

右指補ししるも字去自去の影撰を私承あり古人の
考もあらず也しと天島地取能義志後よりいふもよく
字類と併しく用とそ一理百通のゆゑなり

。も尔葉の秋の事

△西く西んちをいたもかろん、たえんを

是そちののふはなりり

。奇銭かのみ

△猫や細釣の糸ちや生乳

あつるりゆへく燥ふおこ

。去燥秋の事

△夜季や竹田の糸絡 夏かこ

月松枕 又白も 去る

△連歌あしく面をうりやとらふもの
湖階あしく七句さるる一

△法物の文字ハ背三すくさく
後句や張ら面さくらん

△まともにおしそれも二句嫌
本下張も日一今そそ

○困捨歌の事

△眩めよ眩亮九世子火事罪科

天災ふ順ふ者不忠義

△通代の名人の康名宿名も

そまじと知れるら句のく人子心

△に氏とも今居る人の名と虫ま

家くくの秘事赤家の業

△定りうまると色の白く家とつけよ

後句の各序遊名のと紙

△律歌と歌乃の借歌ありハさそ

判若も息とのそく一ささり

△連歌あしく堀川百そさくとし

俳小も二十年來らせ

右六首、故実の歌なり

送り字やうき事ことほふあくをき
縁の一勢 麻の葉聲

垣下山 麁の谷 一々けり
秋より夜 玉のと折

ゆきとふつるをき夜 夜と夜も
命のきゆる 半とさうりん

古こそを祝儀いむ下

祝言よ裂退くいぬる 施いと飯
むよりやうひ 婦よ 縁 壱

薄の狩猿の夢 古くく 久家 鳴

やゆ先鳥 一 退出 一の輪
物宅よくく 大のうき 行つあま

たきよ竹をゆる 樹る 岩り
夏あゆむ 流る人 夏とさ先

凍り 頁のく 差月とつむ
追長り 若しと沈る 扇まよふ

竹掃り 小くを 叶りぬとつむ
乞振り 山を 瓦山とつむ

糸小 一 蠶 より 松とせむ

增 十六篇句體

不易躰

(夜) 孺もあねえと花のさしゆふ山
ゆり賣の房あけぬくさひに玉傳

流行躰

(茶) の火てたをそひよる花見は
夷海歌賣小襟さるせふりや

理屈躰

(井) の水のおそくふあつをさる家
和川は富士の歌あそび沙行歌

格式躰

(さ) らしむや梅さひしきをのく
控家具のさるぬ花屋や菊の花

等用合場

(乙) 名の原あしむ空や月くさす
詠ひきの本音や出らん三日の月

句の甘え

(柴) の戸や暑を月よ取うへ
名月や旋うち也む波のさ波

句の終り

(楽) 天もあはれさしき花のうけ
能くうさか安さよと一の巻

常のこち

(切) らくくと扇をさる暑の那
鶯歌の花のさるりや八九月

只言 發句場

(筆) やさらの喜ふも二三本
船の舟やさらのうさふも二ツ之ッ
柱本屋の自燈工をさる花
賣家の自燈不見さるつ

取る場

(ま) 茶板よささ甘くさる小あし
卯の花や娘の肩のくさる也

あく場

(かきくまきやあき水のきく湯に
手水鉢洗ひ流しきく苔の花

ぬく場

(苔も流白くくきり次十の
喜の空を只下のくや雛子のくま

句の苦み

(多葉屋の音んて虎るや春の
親方よ寺よりききくる畏の

素素を取句

(菓の雀階ありせや初さく
虎船子雲のいふてや鶴のあきま

とど放場

(船んささくく都のなくくま
松風や影をのくくく結くれぬ

氣色

(白ぬの月お鳥やんふのさく
秋風や篋も来りり来ぬんさく

同漕

(夕舟やくまの原わく秋を
既中よりく親くくくや鶴のさ

心の句

(蓬葉おはたや修験の初くく
文月や六月も若のおよくく

日一帖

(角既中くくくく投けても花の
藍毒子切しとくくくくく

但句意同義、俳諧十六篇小くハ

宗師法師

この乃ちも後のまゆを仍ちかた
ふ一人のりてくくくくく

寛政十八年

東都書林

目録格通二町目酒原屋茂兵衛
神田多葉橋通 近江屋新八
本石町二丁目 西むら源 六

再版改正至九刻

